

## 発刊にあたって

この度、根室市の水産業の現状をご紹介させて頂くべく、「令和7年度版 水産ねむろ」を発刊致しました。

当市は、北方海域の豊かな水産資源を背景に、北洋漁業の開拓とともに発展を遂げて参りましたが、度重なる国際漁業規制の強化などから、沖合漁業は次第に縮小を余儀なくされてきました。

海洋環境の変化による主要魚種の不漁の長期化や、少子高齢化に伴う担い手不足に加え、国際情勢の影響による燃油価格の高騰や物価上昇など、当市の水産業を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いております。

こうした苦境の中においても、当市におきましては、昨年、大宗漁業であるサンマ漁が好調に推移したことで2万トンを超える水揚げとなり、「16年連続水揚げ日本一」の座を確保いたしました。

また、全体の水揚げにおいても「ホタテ」をはじめ、沿岸漁業における「昆布」や「たこ」などの漁獲も堅調に推移し、その結果、5万トンを超える全体水揚げとなったことに加え、魚価高にも支えられ、10年ぶりに250億円を超える取扱いとなりました。

これもひとえに、厳しい状況の中においても、「水産物供給基地」としての役割を果たすためにご尽力頂いている関係者皆様の努力の賜物であり、「水産都市・根室」の矜持と底力を改めて実感しているところであります。

現在、国においては、資源管理や養殖の推進、遠洋・沖合漁業での生産性の高い操業の実現、水産物の加工・流通に係るコスト削減等の適切な水産資源の管理を通じて、水産業の成長産業化を目指すことで、漁業者の所得向上と年齢バランスの取れた漁業就業構造の確立への改革を進めております。

市といたしましては、こうした国の動向に決して乗り遅れることなく、国の動向を迅速に把握し、国と連動しながら敵宣対応することで、漁業生産力の強化に繋げて参ります。

また、市では、本年中に「ウニ」や「サーモン」を対象とした陸上養殖試験に向けた施設整備を完了させ、本格的に実証試験を進めて参ります。

本事業は、当市の水産業の未来を切り拓く重要な挑戦であります。

こうした沿岸漁業の増大に向けた「つくり育てる漁業」の推進を積極的に後押しすることはもとより、当市の海域の特色を活かした新たな産業の創出に向けて取り組んで参ります。

本紙を通じて、当市水産業の現状をご理解頂き、今後とも当市水産業の発展に向け、読者皆様のお力添えを頂ければ幸いに存じます。

結びに、本紙作成にご協力を頂いた関係団体の皆様に心より感謝を申し上げます。

令和8年3月

根室市長 石垣雅敏

